「海外研修 I」「海外研修 II」科目における「夏期 NZ 語学研修」
― 7年間（2006年～2012年）の研修を振り返って ―

'Overseas Study Course I' and 'Overseas Study Course II' at Osaka Ohtani College
― Focused on Two-week English Study Program in New Zealand from 2006 to 2012 ―

出 水 純 子
Junko Demizu

キーワード：海外留学制度、ニュージーランド語学研修（短期留学）、「海外研修」、ニュージーランド国立ワイカト大学 Pathways College
Keywords : Study abroad program, Short-term study abroad program in NewZealand, 'Overseas Study Course', The University of Waikato Language Institute (Pathways College) in New Zealand

Summary

Osaka Ohtani College (former Ohtani Women's College) had been providing its students with 6-month study abroad program since Ohtani Women's College formed an affiliation with The University of Waikato in New Zealand in 1997.

'Overseas Study Course I' and 'Oversea Study Course II' started in 2006 to give students an opportunity to attend two-week English study program in The University of Waikato Pathways College (former Language Institute). This program was not a group study abroad tour but a short-term personal study abroad program. They learned not only English but also various cultural aspects of New Zealand while staying with their host families.

'Overseas Study Course I' was open to first -year students and 'Overseas Study Course II' to second-year students. These classes were designed as pre-study abroad courses in the first semester. Students participated in 'General English Course' at The University of Waikato Pathways College for two weeks during summer vacation.

Reports submitted by participants and the result of questionnaire showed that most participants were satisfied with the two-week study program in NZ. They had a great experience of spending two weeks in English speaking environment and meeting people with different cultures. 'Overseas Study Course I (NZ)' and 'Overseas

Study Course II (NZ)' were successful classes for students to improve their cross-cultural communication literacy.

はじめに

グローバル化する日本社会の中で、海外への留学生が減少し、若者が「内向き志向」になっているという問題がたびたびメディアで取り上げられている。原因としては、留学費用の確保が困難になってきていることや、就職活動の早期化、長期化、インターネットの普及によって海外の情報が簡単に手に入るようになったことなどがあると言われている。若者の「内向き志向」が指摘される一方で、ベネッセコーポレーションが今春インターネットで実施した保護者への「海外留学に対する意識」調査では、子どもに海外留学をさせたいと考える親は41.3%にのぼるという。「費用負担がネックになる」との回答が61.8%あり、「安全面で不安である」と感じている保護者が45.1%という結果が出ている。本学が実施している6か月留学やニュージーランド語学研修でも、空港に見送りに来ている保護者たちと話をしていると、家族全員が留学する学生を応援し、子どもが留学することへの期待の大きさが感じられた。

文部科学省は、産学連携によるグローバル人材育成推進会議の最終報告書「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」の中で、若者の「内向き志向」からの脱却の方法として、日本人学生の異文化理解を促進するとともに留学に対する関心を高めるため、短期留学体験機会などを充実することを提案している。基本方針の一つとして、「日本人学生が海外における留学などの海外経験等を通じてその見識を高め、世界で通用する人材として成長するための環境整備を目指す」こと、そのための具体的方策の一つとして、「日本人学生の海外留学を後押しする」ことを挙げ、さらに「日本人学生の留学成果の可視化」を求めている。高等教育機関には、以下のような「留学支援のための体制整備」を求めている。

> 留学先大学の状況、留学生OBの感想・評価など留学に関するための情報のデータベース化を進めるなど情報提供体制を整備するとともに、留学に関する相談体制や留学後の就職に関する相談体制を整備する。(文部科学省ホームページpdf資料、p.8)

学生を「外向き志向」にして、学生に安全で有意義な留学制度を提供するためには、ただ海外に学生を送り出すことだけではなく、留学先大学の状況や留学生の感想・評価などの情報を記録してデータベース化しておく必要があることが改めて認識される。

平成24年度をもって短期大学部が最終年度を迎えるにあたって、長年実施してきた、留学制度、海外研修プログラムの実績や海外研修に参加した「学生による評価」を整理し、今後、大阪大谷大学が留学・海外研修制度を企画し実施していくためのデータベースとまではいか

なくても、情報を記録しておきたいと思い本論を執筆することにした。

短期大学部（旧、大谷女子短期大学）が留学制度を設けたのは平成10年度（1998）のことである。前年の平成9年度（1997）に、大谷女子短期大学は、ニュージーランド国立ワイカト大学 Language Institute（現在は University of Waikato Pathways College）と提携した。1年次後期6か月間の留学で、単位を上限15単位読み替えることで、留学した学生は在学期間を延長することなく2年間で短期大学を卒業することが可能であった。平成13年度(2001)には短期留学制度として春期2週間～3週間語学研修プログラムを企画し実施した。

さらに短期留学を単位化するために夏期2週間語学研修を義務付ける「海外研修 I」、「海外研修 II」科目を開設した。「海外研修 I」「海外研修 II」には、教員が付き添う北アメリカコースも開講しているので、区別するために本論では、便宜上「海外研修 I（NZ)」「海外研修 II（NZ)」と記述することにする。

6か月間留学と短期語学研修プログラムでは国立ワイカト大学 Language Institute で受講するコースが異なるが、本論で扱う春期・夏期語学研修は、NZ 国立ワイカト大学 Language Institute と提携して以来実施してきた、6か月留学制度を基にして企画した短期留学プログラムなので、6か月留学制度についても述べておきたい。

I．NZ 国立ワイカト大学への6か月留学制度

NZ 国立ワイカト大学は、ニュージーランドの北島、ハミルトン市にある総合大学である。人文社会学部、情報学部、教育学部、法学部、マオリ太平洋開発学部、科学技術学部、経営学部からなる。日本からの留学生の窓口として日本事務所を神戸市に開設している。Pathways College(前 Language Institute)はワイカト大学によって運営されている教育機関で教育学部に属し、大学教育への「架け橋」の役割を担っていると同時に、外国語としての英語（ESOL）を教える教師のための研修も実施している。留学生対象としては、「アカデミック英語コース（Academic English course)」と「一般英語コース（General English)」を設けており、主に大学や高等教育を目指す人が、「アカデミック英語コース」を修了すればワイカト大学への学士及び博士課程のいくつかのコースに編入するための英語試験が免除されることになっている。本学の6か月留学制度では、学生は「アカデミック英語コース」を受講し、短期留学プログラムとしての語学研修では「一般英語コース」を受講することにしている。

NZ 国立ワイカト大学との提携後、6か月留学制度がスタートし、短期留学プログラムとして発足した NZ 語学研修が、「海外研修 I（NZ)」「海外研修 II（NZ)」科目となるまでを、短期大学部の歴史を踏まえて、振り返っておきたい。

（1）留学制度の変遷

平成9年度（1997）NZ国立ワイカト大学が大谷女子短期大学（現、大阪大谷大学短期大学部）の提携校となる。

平成10年度（1998)入学生より、「英語英文学科」において1年生を対象としてNZ国立ワイカト大学Language Instituteへの「6か月留学制度」開始。第1期生4名が留学。この制度は平成24年度（2012）まで継続されるが、平成19年度（2007）以降は応募学生なし。

平成11年度（1999)「海外留学規程」及び「海外留学施行細則」が設けられて、「英語英文学科」1年生だけではなく、短期大学全学科（「家政学科」「生活文化学科」「英語英文学科」「国際文化学科）の学生が留学制度の対象となり、提携校以外の大学への6か月留学も可能となる。

大谷女子短期大学の国際交流委員会が組織され、留学生の選考、留学のための事前指導及び留学中の学生への連絡・指導にあたることになった。

平成13年度（2001）学園の改革によって、「生活科学科」「生活文化学科」「海外コミュニケーション学科」の3学科体制（国際文化学科募集停止）となる。

「海外コミュニケーション学科」の海外研修科目「エリアスタディーズ（カナダ、フランス)」が米国同時多発テロの影響で中止になったため、大谷女子短期大学部国際交流委員会が主催して、全学科の学生対象に提携校であるNZ国立ワイカト大学Language Instituteへの「春期NZ語学研修」（個人留学）2週間を初めて実施した。単位認定なし。

平成14年度（2002）国際交流委員会主催の「春期NZ語学研修」（個人留学）を継続して実施。2週間コースに加えて3週間コースも実施した。単位認定なし。

平成17年度（2005）学園の改革によって大谷女子短期大学は、3学科を統合して1学科「生活創造学科」、4コース「食生活コース」「ファッションコース」「住居・インテリアコース」「教養総合コース」に改組するとともに、大谷女子大学との一体化を指向して、大谷女子大学短期大学部と学校名の変更が行われた。

平成18年度（2006）大谷女子大学の男女共学化に伴い大阪大谷大学と改称、短期大学部も大阪大谷大学短期大学部に改称された。男女共学制へ移行。「大阪大谷大学・大阪大谷大学短期大学部国際交流委員会規程」が制定され、大阪大谷大学国際交流室が短期大学部との兼務組織となる。

前年度の6か月留学生が0名だったことから、短期間留学としてNZ国立ワイカト大学Language Instituteでの夏期語学研修を含む「海外研修Ⅰ（NZ)」、「海外研修Ⅱ（NZ)」科目を開設し、カリキュラムに組み入れた。

平成19年度（2007）6か月留学への助成金制度、及び出願提出書類が大学と統一された。留学出願書類も国際交流室受付となる。

（2）6か月留学制度の概要

① 留学対象学生：6か月以上在学した全学科の学生

② 留学先： 1. NZ国立ワイカト大学 Language Institute

2. 提携校以外の海外の大学

（注）実施を始めた平成10年度（1998）から平成24年度（2012）まで、提携校以外への留学生なし。

③ 留学期間： 6か月以内

④ 単位認定： 留学先での学修に対して、審査の上、15単位まで単位認定する。

⑤ 留学助成金制度：留学先の授業料の半額（50万円を限度とする）を助成する。

助成対象者は、選考試験に合格した学生2名以内。

（注）平成20年度（2008）からは大谷女子大学（現、大阪大谷大学）と統一して、授業料の半額ではなくて、上限25万円、学生4名以内となる。

⑥ 留学出願資格：留学を支障なく達成するために、十分な外国語能力を有すること。本学における平素の就学状況が良好であること。留学目的が明確であること。保護者の同意が得られること。

⑦ 留学生選考方法：出願書類による審査と面接（英語・日本語）を実施する。

（3）6か月留学年度と参加学生数

平成15年度には「海外コミュニケーション学科」から5名もの学生が留学した。一方で「海外コミュニケーション学科」が「生活科学科」「生活文化学科」と統合されて「生活創造学科」となった平成17年度は留学生0名であった。

年度	西暦	学科	学年	人数	合計人数
平成10年	1998	英語英文学科	1年	4名	4名
平成11年	1999	英語英文学科	1年	1名	2名
		家政学科	1年	1名	
平成12年	2000	英語英文学科	1年	3名	3名
平成13年	2001	海外コミュニケーション学科	1年	1名	1名
平成14年	2002	海外コミュニケーション学科	1年	4名	4名

平成15年	2003	海外コミュニケーション学科	1年	5名	5名
平成16年	2004	海外コミュニケーション学科	1年	2名	2名
平成17年	2005	生活創造学科	1年	0名	0名
平成18年	2006	生活創造学科　教養総合コース	1年	2名	2名

（4）6か月留学制度「実施マニュアル」

① 単位認定

ワイカト大学における学修の、出席状況・進歩の度合い・成績などの記録を基礎にして、本学の単位として上限15単位まで認定する。単位認定科目については、各学科の国際交流委員、及び教務担当の先生の指導を受けること。万一、ワイカト大学での履修科目数・出席時間数が不足した場合には、本学で2年次に再履修することになる。

② 留学中の学習状況報告書の提出について

2か月ごとにワイカト大学での学習状況を各学科の国際交流委員に、英文（500語程度）で報告しなければならない（E-mail 可）。

③ 事前指導

ニュージーランドの文化・歴史、及び日本の文化についてのレポートを提出し、担当者のオリエンテーション（1. 前年度留学生との懇談会　2. E-mail・インターネット使用方法、ホームステイについて　3. NZ レポート発表　4. 英会話指導　5. 出発事前指導）を受けなければならない。

④ カウンセリング

留学中の学生にトラブルが生じた場合には、ワイカト大学の日本人スタッフが対処する。現地で対処できない問題は、本学国際交流委員に連絡する。

⑤ 留学の取り消し

前期の単位取得状況が著しく悪い場合は、留学許可を取り消す場合がある。

⑥ その他

全日程を保証する海外旅行傷害保険に加入しなければならない。留学中はアルバイトをしてはならない。留学中の自動車・バイクの免許取得、及び自動車の運転を禁止する。

Ⅱ. 短期留学プログラムとしての「春期 NZ 語学研修」について

平成13年度（2001）及び平成14年度（2002）に大谷女子短期大学国際交流委員会が、春期語学研修プログラムを企画し、実施した。いずれのプログラムも単位認定なし、助成金なしである。

（1）平成13年度（2001）春期NZ語学研修

＜募集要項＞

① グループ研修

最低催行人数10名。

英語1日3時間の授業を2週間、合計30時間の授業と午後は市内観光、ゴルフレッスン、乗馬など各種アクティビティ。

② 個人研修―英語46時間コース

最低催行人数　1名。

1週間23時間の英語の授業。午前3時間及び、指導教官付のSelf-Study月～木の午後2時間を含む。初級から準中級はリスニングとスピーキングと発音に主眼をおいた内容。中級以上は、「リスニング」「スピーキングと発音」「リーディングと文法」「ビジネス英語」「ニュースと最近の出来事」「情報技術（IT）の英語」「観光学の英語」「ケンブリッジ英検、TOEFL対策など」からのオプション。

③ 個人研修―英語30時間コース

1週間15時間の英語の授業。午前3時間、午後フリー。

上記「グループ研修」と「個人研修―46時間コース」への応募はなかった。2名の応募者があった「個人研修―英語30時間コース」の実施要項と参加学生数は以下の通りである。

＜実施要項と参加学生数＞

①研修先　：　国立ワイカト大学Language Institute

②研修期間　：　2002年3月2日～3月17日（16日間）
週15時間授業―合計30時間

③受講コース名：　General English Course, Part Time（週15時間）または Full Time（週23時間）で個人のレベルに合ったクラスを受講

④ホームステイ：　ハミルトン市またはその近郊で、1人1家庭

⑤付き添い　：　なし。教員が関空まで見送り、オークランド空港からは係員がホームステイ先まで車で送迎する。

⑥参加学生　：　2名（「海外コミュニケーション学科」1年生）

（2）平成14年度（2003）春期NZ語学研修

昨年度参加した学生から2週間の研修期間は短かったとの感想が聞かれたので、新たに3週間コースを加え、「2週間コース」と「3週間コース」に、それぞれ「英語30時間コース」と「英語46時間コース」を設け、合計4種類のプログラムを企画した。学生を募集したところ

「2週間・英語30時間コース」に2名と、「3週間・英語46時間コース」に2名の学生が応募し、研修に参加した。

＜実施要項と参加学生数＞

①研修先　：　国立ワイカト大学 Language Institute

②研修期間　：　2週間コース　2003年3月1日～3月16日（16日間）
週15時間授業―合計30時間
3週間コース　2003年3月1日～3月23日（23日間）
週23時間授業―合計46時間

③受講コース名：　General English Course, Part Time （週15時間）または Full Time（週23時間）で個人のレベルに合ったクラスを受講

④ホームステイ：　ハミルトン市またはその近郊で、1人1家庭

⑤付き添い　：　なし。教員が関空まで見送り、オークランド空港からは係員がホームステイ先まで車で送迎する。

⑥参加学生　：　2週間コース　2名（「海外コミュニケーション学科」1年生）
3週間コース　2名（「海外コミュニケーション学科」1年生　1名
「生活科学科」1年生　1名）

Ⅲ.「海外研修Ⅰ（NZ)」「海外研修Ⅱ（NZ)」科目の「夏期語学研修」について

平成18年度(2006)よりカリキュラムに組み入れ、単位化した。平成18年度、19年度(2007)の1年生対象「海外研修Ⅰ（NZ)」は通年科目で4単位。2年生対象「海外研修Ⅱ（NZ)」は学生が履修しやすいように、前期科目で2単位とした。平成20年度(2008)以降は「海外研修Ⅰ(NZ)」「海外研修Ⅱ（NZ)」ともに履修しやすいように半期科目、2単位となった。ただし、平成20年度「海外研修Ⅰ（NZ)」に限っては前年度の単位を引き継いで4単位とした。前期科目としたのは、授業を「夏期語学研修」の事前教育と位置づけたためである。

（1）シラバス

シラバスは毎年見直してきたが、本年度の「海外研修Ⅱ（NZ)」のシラバスを掲載することにする。

＜平成24年度（2012)「海外研修Ⅱ（NZ)」シラバス＞

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
前期	講義	2単位	
曜日時限			

前期: 火曜5限
配当学科・学年
短大2
担当教員
出水　純子

授業テーマ	ニュージーランド語学研修（夏期2週間）受講のためのコース
講義概要	本学の提携校であるニュージーランド国立ワイカト大学 Pathways College で、2週間語学研修することを目標として、留学に必要な英語運用能力を養うとともに、ニュージーランドの文化、歴史についても学ぶ。
到達目標	ひとりで海外旅行をできるだけの、旅行英語を見につける。 ホームステイで使う英語やマナーを習得する。 ニュージーランドの国や文化について説明できる。
評価方法	授業中の課題への取り組みと、ニュージーランドでの語学研修の成果で評価する。
評価基準	海外旅行英語を習得している。 入国から出国までの手続きがひとりで出来る。 ニュージーランドの歴史や文化について説明できる。
テキスト	授業中に指示する。
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	ニュージーランドでの夏期2週間の語学研修に参加できること。 研修参加に対する保護者の理解が得られること。 ニュージーランド語学研修に教員は同行しない。
準備学習	指示された英語表現を復習すること。 ニュージーランドについての情報を集めること。 研修開始前に、ホストファミリーとメールの交換をすること。
オフィスアワー等	授業終了時に質問に対応する。
備考・メッセージ	旅費、研修費等の他に、パスポート取得費用が必要です。 研修期間については、授業中に説明します。

授業計画			
回数	担当教員	授業内容/到達目標	備考
1	出水	オリエンテーション／授業の進め方を理解できる	
2	出水	飛行機の中での会話表現（1）／機内での会話ができる	
3	出水	飛行機の中での会話表現（2）／機内での会話ができる	
4	出水	入国審査の受け方／入国審査を通過できる	
5	出水	税関での会話表現／税関を通過できる	
6	出水	ホテルのチェックイン時の会話表現/　ホテルのチェックインができる	
7	出水	観光案内所での会話表現/　観光情報を聞き取ることができる	
8	出水	バスの乗り方/　バスに乗ることができる	
9	出水	道の尋ね方/　道順を聞き取ることができる	
10	出水	語学研修申込書（英文）の書き方/　英語で研修申込書を作成できる	
11	出水	ニュージーランドの歴史と文化/　ニュージーランドについての知識を得る	
12	出水	ホームステイ・イングリッシュ/　ホストファミリーと会話ができるようになる	
13	出水	ホームステイ・イングリッシュ/　海外で生活するマナーを身に付ける	
14	出水	ワイカト大学日本事務所による説明会/　持ち物、研修中の諸注意などの情報を得る	
15	出水	総括	

・第1回目の「オリエンテーション」では、平成20年度（2008）に参加した学生制作のNZ研修体験談DVD 、NZ紹介のビデオを見てもらい、NZ観光庁ホームページを紹介するなど、語学研修内容とNZという国の概要を説明した。

・第10回目には、語学研修申込書（英文）の書き方を指導するとともに、英語で自己紹介文を書かせた。学生が希望すれば、自己紹介文は申込書に添付したり、ホストファミリーへ

の事前のメール送信、ホームステイ先での自己紹介として使用できるようにした。

・第14回目「ワイカト大学日本事務所による説明会」には、曽我部知子さん（現ワイカト大学日本事務所副所長）に毎年来学していただいて開催した。学生が自己紹介をした後、関空出発から帰国までの研修日程の説明、研修初日の日程と時間割説明、「ワイカト大学Pathways College留学ガイドブック」にそったホームステイ先での諸注意、パスポートや現金の管理などの説明を受けた。

・シラバスには掲載していないが、昼休みの時間を使って、前年度参加学生との懇談会を開いた。7月の昼休みに実施。大学での授業、クラス分けテスト、ホストファミリーでの生活や、持ち物、おみやげのことなど、研修全般について心配なことを聞く機会を設けた。

・夏期休暇中には、日本事務所からホストファミリーの案内（プロフィールと地図）、キャンパス地図が学生宛に送付された、ハミルトン市の地図には参加学生全員のホストファミリーの場所がマークされている。航空券の手配を依頼しているカリヨン・トラベルからは、関空集合時間、出発便、帰国便などの情報とEチケットが学生宛に送付される。上記すべての資料は授業担当者である筆者宛にも送ってもらった。

（2）実施要項、及び開講年度と履修者数

研修期間は、各年度の学生の科目履修状況を考慮して夏期集中講義が入っていれば、その期間を避けて、航空料金の安い期間を選ぶなど柔軟に設定した。9月上旬には再試験期間が予定されているが、教務委員会の配慮で該当者が出ればその都度対処してもらうことにした。幸い再試験を受ける必要のある学生は一人も出なかった。

＜実施要項＞

①参加対象学生：　「海外研修Ⅰ（NZ）」「海外研修Ⅱ（NZ）」履修学生

②研修先：　NZ国立ワイカト大学Language Institute(現、Pathways College)

③研修期間：　平成18年度（2006）8月19日（土）～9月 3日（日）16日間
平成19年度（2007）8月16日（木）～9月 1日（土）17日間
平成20年度（2008）8月16日（土）～9月 1日（月）17日間
平成21年度（2009）　実施せず
平成22年度（2010）8月28日（土）～9月13日（月）17日間
平成23年度（2011）8月27日（土）～9月12日（月）17日間
平成24年度（2012）　9月 1日（土）～9月15日（土）15日間

④受講コース名：General English Course, Part Time
（週15時間授業―合計30時間）

⑤ホームステイ：ハミルトン市で、日本人留学生は1家庭に1人

⑥付き添い：　なし。教員が関空まで見送り、オークランド空港からは係員がホームステイ先まで車で送迎する。

＜開講年度と履修者数＞

平成21年度（2009）は、「海外研修Ⅰ（NZ）」「海外研修Ⅱ（NZ）」の受講生がいなかった。理由として考えられるのは、NZ国立ワイカト大学Pathways Collegeへ6か月留学をした1年生が5名もいたことである。

年度	西暦	コース	学年	履修人数	合計人数
平成18年	2006	ファッション	1年	1名	4名
		住居・インテリア	1年	1名	
		教養総合	2年	1名	
		食生活	2年	1名	
平成19年	2007	教養総合	1年	2名	2名
平成20年	2008	教養総合	1年	1名	2名
			2年	1名	
平成21年	2009	なし	なし	0名	0名
平成22年	2010	教養総合	1年	1名	3名
		ファッション	2年	2名	
平成23年	2011	教養総合	1年	1名	2名
			2年	1名	
平成24年	2012	ファッション	2年	3名	4名
		教養総合	2年	1名	

（3）学生による授業評価

「海外研修Ⅰ（NZ）」「海外研修Ⅱ（NZ）」を開講した、平成18年度（2006）から平成24年度（2012）に至るまで、授業内容を改善するために、夏期語学研修から帰国した学生に提出させたレポートや「良かったこと」「困ったこと」報告、さらに帰国後に実施したアンケートを学生による授業評価として使用してきた。レポート内容やアンケートへの記載内容を次年度の授業に反映し、学生がより安全で有意義な研修を受けられるように努力してきたつもりである。

レポート提出を課題としたのは、1年生のみで、「海外研修Ⅰ（NZ）」が通年科目4単位であった、平成18年度（2006）、平成19年度（2007）、及び平成20年度（2008）の3年間である。

2年生には研修中で「良かったこと」「困ったこと」だけを箇条書きにして提出してもらった。

平成20年度から平成24年度までは「海外研修 I」「海外研修 II」とも半期（前期）科目となったが、平成20年度は「海外研修 I」4単位、「海外研修 II」2単位で、平成21年度から両科目とも2単位となった。平成21年度（2009）は科目履修者がいなかったので、平成22年度（2010）からの3年間はアンケートに答えてもらう方法で学生による授業評価をしてきた。アンケートは帰国後に学生に手渡し、無記名で提出してもらった。

1．平成18年度（2006）夏期語学研修

1年生2名に以下の課題でレポート（2000字程度）を提出させた。2年生には、NZ 語学研修で「良かったこと」「困ったこと」を箇条書きして提出させた。

＜レポート課題＞

① ニュージーランド、ハミルトン市の町について（建築物、商店街、スーパーマーケット等）

② ニュージーランドの人々の生活（ホームステイ体験を基に）

③ クラスメイト及び Language Institute での授業を通した異文化理解体験

提出された1年生のレポートと2年生の箇条書き報告の中から、夏期研修に対する「学生による評価」にあたる部分だけ抜き出してまとめてみると次のようになる。

＜学生による評価＞

1年生Ａ：いろんな国の人と友達になれたし、日本ではできない体験ができた。学校のメンバーがいたので一人で行くよりは不安がなかった。もっと英語がしゃべれるようになってから行かないと得ることも少ないと思う。

1年生Ｂ：現地の人はフレンドリーで助けてくれる人が多かった。自分の言いたいことが、相手に通じないこともあったが、一生懸命に理解しようとしてくれたので、今回の研修がなりたったかなと思う。今回の海外研修は私にとって大きな経験になって本当によかった。

2年生Ａ：ホームステイ先で毎日、その日の大学での出来事を聞いてくれて会話するタイミングがつかめた。一緒にゲームをしたりして楽しくすごせた。週末の過ごし方が分からなかったが、海に連れて行ってもらったりしてよかった。

2年生Ｂ：ホームステイの家族がとてもやさしくて、わかりやすく英語を話してくれたのでよかった。大学の授業もおもしろかった。日本で学ぶ英語と発音が違った。

2．平成19年度（2007）夏期語学研修

1年生のみの参加だったので、レポート（課題は昨年度と同じ）を提出させた。

<学生による評価>

1年生A：サウジアラビア、タイ、台湾、韓国、チリなどの学生たちと、同じ教室で同じ語学を勉強した大学生活は、毎日が驚きや、新しく知る事ばかりで、一番刺激を受けた。この海外研修は有意義なものだったと断言できる。こんな機会はもうあるか無いかの体験だったと思うので、忘れずに今後に生かすことが出来たらと思う。

1年生B：ニュージーランドの人は家族やまわりの人を大切にする心を持っている。とまどっている時、初対面の人でも暖かく話しかけてきてくれて感動した。ワイカト大学で学んだ英語は今でも身についていて、本当に行って良かったと思う。ニュージーランドでの2週間は多くの異文化と触れ、とても良い体験になった。このことを忘れずにこれからも英語の勉強をして行きたい。

3．平成20年度（2008）夏期語学研修

1年生にはレポート提出を求めたが、学生は代わりに夏期研修体験をDVDにして提出した。写真が趣味の学生で、NZの風景や、クラスの様子、ホストファミリーのことなどが、映像と音楽でまとめられていて、見ると参加したくなるような若者向けのNZ夏期研修紹介のDVDになっている。本人の許可を得て、次年度以降の授業の初めにオリエンテーションとして使用することにした。

2年生には後期に筆者担当の別の授業にも出席していたので口頭で話を聞いたり、写真を見せてもらったりした。コミュニケーションが苦手な学生だったが、困ったこともなかったとのことで、元気に後期の授業を受講した。

4．平成21年度（2009）夏期語学研修

参加者なし。

5．平成22年度(2010)～平成24年度（2012）夏期語学研修

平成22年度には「教養総合コース」と「ファッションコース」という2つのコースからの参加者があり、「海外研修Ⅰ（NZ)」「海外研修Ⅱ（NZ)」は前期完結科目で、夏期研修が終われば参加学生に会う機会もないのでアンケートを作成し、クラスアドバイザーに依頼してアンケートを配布、回収してもらうことにした。

3年間の参加者、合計9名のアンケートの集計結果は以下の通りである。

＜アンケート集計結果＞

① 関空出発からホームステイ先到着まで、不安なことや問題がありましたか？

あった	3名
なかった	6名

→「あった」と答えた方は具体的に書いてください。

・正しい便に乗れるか。
・入国手続き。
・ホームステイ先までのバスにきちんと乗れるか。
・国について予習していなかったため、勉強不足だった。
・空港で長時間待たされた。（注）

（注）出発日にNZ航空の到着が遅れたため、関空出発が4時間遅れた。

② ホームステイでの生活で不安なことや問題がありましたか？

あった	5名
なかった	4名

→「あった」と答えた方は具体的に書いてください。

・お風呂はちょっと汚いというかお風呂につかる習慣がないので日本人は気になると思う。
・さむい・・・!!
・ホストファーザーの言うことを勘違いしていた（バスの乗り降りの仕方で）。
・英語をあまり話せないので、きちんと伝えられるか心配だったけれど辞書や紙に書いて伝えられた。やさしく接してくれたのでよかった。
・どのように話していいかわからなかった。
・洗たくをどうしていいかわからなかった。

③ ホームステイ先で楽しかったことがあれば書いてください。（自由記述）

・ホームステイ先の家族同士で出かけたことなど。
・パーティなど子供たちとあそんだこと。
・ハミルトンの町探検など、クラスの友達と遊びに行ったこと。
・家にジャグジーがあって、友達と一緒に入れたこと。
・日曜日に、一緒に大谷から来た人たちとロトルアにつれていってもらった時。

・晩ご飯はとてもおいしくて、食事中は、冗談などを言い合って楽しかった。
・みんなで食べるディナーの時。
・ホストマザーにパーティに連れていってもらったこと。
・一緒にクッキーやケーキを作ったり、私がお好み焼きを作ってよろこんでくれたので楽しかった。
・いろんな場所に連れていってくれた。特にファームが楽しかった。
・ボーリングに行って楽しかった。

④　ワイカト大学への通学（バスの乗り降り）に問題はなかったですか？

あった	3名
なかった	6名

→「あった」と答えた方は具体的に書いてください。
・（バスカードの）チャージ!!（がめんどう）
・初日、バスがややこしくて、学校に遅刻した。（一人だけ City Bus だったので）
・最初は、バスを降りる場所が全然分からなくて迷った。ドライバーの人に降りる時に教えてもらって降りることができた。

⑤　ワイカト大学での初日のテストは難しかったですか？

難しい	6名
普通	3名
やさしい	0名

→「難しい」と答えた方は具体的に何が難しかったのか書いてください。
・難しい!!　英語で「英語を学んだ時の利点を書きなさい」と書かれていて、それについて作文を書かされた。問題の意味も理解できているのか分からないのに、作文するのは難しくて泣きそうだった。
・すごく英語がはやくて聞き取れなかった。
・文法問題などとてもレベルが高く、難しかった。
・リスニング。
・作文を書くのが難しかった。

⑥　ワイカト大学での授業は自分のレベルにあっていましたか？

レベルが高すぎた	１名(注１)
ちょうどよい	８名(注２)
レベルが低すぎた	０名

(注1)「レベルが高すぎた」を消して「少し高いくらい」と記入した学生1名。
(注2)「ちょうどよい」の下に「ちょっと高い？」と記入した学生1名を含む。

⑦　ワイカト大学で１クラスの人数はだいたい何人くらいでしたか？

14人位	１名
15人位	５名
16人位	１名
20人位	２名

⑧　ワイカト大学の授業で楽しかったことや困ったことを具体的に書いてください。
（自由記述）
―楽しかったこと―
・他の国の人達も同じく英語を学びに来ているので、いろいろな国の友だちができた。
・８ヵ国の友だちができて、友だちの母語を教えてもらったりした。
・みんなで協力してする授業は楽しかった。
・クイズ式の授業がおもしろかった。
・グループで一人以外、先生の書いた単語を見て、その一人の人に先生が何を書いたかを英語で説明するという授業は、とても勉強になったし、楽しかった。
・ゲーム式の授業が楽しかった。
・進み具合は、ちょうどよかったです。
・他の国の人達といろいろ話をしたり、発音を学べて楽しかった。
・英語を使ってのゲーム（すごろく）が楽しかった。
―困ったこと―
・最初は全く授業が理解できなくて困りました。
・全部英語だから、問題が解けても、何をどう答えたらいいのか分からないことが多くて困った。
・先生の説明があまり分からなかった。

・財布を教室に置き忘れて、お金をとられた。(注1)

・途中でクラスが変わり、日本人ばかりになった時は楽しくなかった。(注2)

(注１) 帰国前日に、大学で財布を入れたカバンを教室に置いたまま外に出ていた間に、財布の中身だけ抜き取られたとのこと。本人の不注意であることを保護者も納得された。お金の管理は、日本の大学構内でも同じであるので、気をつけるように注意した。

(注２) 月曜日から新クラスが始まるので、クラス人数が増えるとクラス移動が起こることがある。たまたま日本人の団体クラスに移動になったとのこと。

⑨　持参したお小遣いは、3～4万円で足りましたか？

多すぎる	０名
ちょうどよい	８名
足りない	１名

追加（コメント）記入有

・5万円くらいがいいかな？両替は必要な時にしかしない方がよい！学校で両替したら何%かとられるから、町で(手数料)Freeのところでする方がオススメかな。

・5万円あれば十分でした。

・ギフトパンフレットで2万円分お菓子のお土産を注文していたので、3～4万円でちょうどよかった。

⑩　全体として今回の研修内容はどうでしたか？

とても満足	５名
まあまあ満足	４名
やや不満	０名
たいへん不満	０名

追加（コメント）記入有

・また、ニュージーランドに行きたい。

<アンケート結果考察>

アンケートの結果を見ると、すべての学生が研修内容に満足していることが分かる。「困ったこと」では最初は英語が聞き取れなかったこと、バスの乗り方などである。「楽しかったこと」では、ゲームを取り入れるなど全員参加型の授業や他国からの留学生との交流、農場

や観光地訪問、ホストファミリーとの生活などである。2週間の滞在では語学力を急激に伸ばすことは難しいが、日本人は1家庭に1人と言う環境の中で、相手の話す英語を何とか理解しようとした努力や、自分の言いたいことを伝えようとした努力は評価すべきである。

海外研修において、何よりも大切なのは異文化体験である。研修先での授業を通して、またホームステイ先での生活において、質問の仕方、答え方などの英語表現に気づくことは、主体的学習として重要であるが、先生や他国からの留学生、ホストファミリーなどの考え方や生活習慣の違いに気づくことが何よりも大切である。こういった気づきは、アンケート結果からも読み取れるが、帰国後の学生と話をしていると様々な体験をしてきたことが分かる。

朝日新聞記事「子どもの異文化体験」で立命館大学産業社会学部の森田真樹准教授（グローバル教育）は、「多様な価値観を受け入れ、共生する能力を身につけるために重要なのは、知識でなく、価値観を揺さぶられるような直接的な出会いだ」と述べている。情報化社会にあって、携帯やスマートフォンでのコミュニケーションに依存しがちな若者こそ、海外に出かけ、その土地で生活し、今までに会ったことのない人々と直接出会うことによって、価値観の違いに気づくことが重要である。たとえ短期間であっても海外研修はそのような機会を与えてくれると言える。

Ⅳ. 課題（問題点）

個人留学で一番気をつけなければならないことは、出発から帰国まで学生の安全を確保することである。事前授業、出発前の説明会は前期学期中に終えているとして、出発前日には各学生に最終チェックの電話連絡を入れる。出発当日は、機内に持ち込むべきもの、持ち込んではいけないものの最終チェック。チックイン手続きの手伝い、出発案内板の確認、ホームステイ先到着時に保護者に電話をする時間の打ち合わせが済んでいるかどうかチェック。搭乗手続き入口までの見送り。ニュージーランド到着日夜には、学生の自宅に電話して、学生からホームステイ先に到着した旨の電話があったかどうか確認。メールで教務課、学部長、学科長に連絡。帰国日は出迎えに行かずに、学生の自宅に電話して帰国を確認。メールにて教務課、学部長、学科長に連絡。という一連の手順で学生の安全を確認してきた。

災害がおきることはめったにないが、危機管理規程の重要性を切実に感じたのは、平成22年（2010）9月4日(土)におきたニュージーランド南島、クライストチャーチ大地震（マグニチュード7.0）の時である。3名が夏期研修中であった。ハミルトン市は北島だからと安心していたが、保護者から問い合わせがあり、週末だったことから、ホストファミリーとメールのやり取りで学生の安否を確認したことがあった。

研修中のトラブルについては、ワイカト大学 Pathways College の日本人スタッフが対応することになっていて、登校初日には日本人スタッフの事務所を確認し、あいさつしてお

くように伝えている。学生が風邪をひいた時は病院に付き添ってもらった。バスの乗り方も日本人スタッフに聞いておくように伝えてあったが、初日はホストファミリーに教えてもらって行くしかない。大学まで行くのが一番難しかったようで、何人かがバスを乗り間違えたり、降りるバス停を間違ったりしていた。ホームステイ先が決まるのが夏期休暇中で、学生にとっては、どのルートで大学まで行くのか不明だが、あらかじめ市内のバス路線や料金が分かっていれば不安も解消できたかもしれない。

「海外研修Ⅰ（NZ)」「海外研修Ⅱ（NZ)」科目の良い点は、夏期語学研修のための事前教育を時間をかけて実施できることである。前期授業の間、学生と向き合うことで、学生の性格や英語運用能力を知ることができるし、学生の履修状況を考えて夏期研修期間を決めることもできる。パスポートを取るのは初めて、という学生でも履修できる科目になっていることは評価できる一方で、航空チケットの発注から、空港での見送りまでを科目担当教員一人が行うことは、労力においても心理面においても負担が大きいことは問題でもある。特に週末にトラブルがあった時は、国内外の大学との連絡を取りにくいことも気がかりであった。

文部科学省は「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略（案)」の中で「現地における安全確保について、十分に情報提供を行うとともに、緊急時の連絡体制を整備する」ことを求めている。本学では、国際交流委員会で案が作成され、平成22年（2010）4月から「危機管理規程」が施行されている。本年度中には海外危機管理体制構築に必要なマニュアルやシステムが導入される予定である。

留学体験は貴重なものだが、体験を留学後の生活にどう生かしていくかが課題である。これには担当教員だけでなく、学生が所属するコースや学科全体の教職員で対応する必要がある。短期大学部では、6か月留学制度を利用して留学した学生の大半は、向学心が高まり、帰国後はクラスを活気づける中心的存在となった。クラスアドバイザーや教務委員などの支援で編入学制度を使って、桃山学院大学国際文化学部、龍谷大学国際文化学部、プール学院大学国際文化学科に進学したり、カナダに留学するなど、留学の成果を卒業後まで発展させていくことができた。「海外研修Ⅰ（NZ)」「海外研修Ⅱ（NZ)」の夏期語学研修に参加した学生も、帰国後にホストファミリーとメールの交換を始めたり、英文手紙の書き方を勉強したりと、自主的学習を続けている。帰国後にTOEICを受験して、2年次に本学の国際交流委員会企画による3週間英国語学研修に参加した学生もいた。

学生の留学体験は英語力の向上だけではなく、異文化体験によって人間としても成長させる。留学先の単位を読み替えて単位認定したり、「海外研修」科目をカリキュラムに組み込んで、単位認定をすればよいという問題ではない。「異文化リテラシー」や「異文化コミュニケーション能力」を身につけて帰って来た学生が、英語の授業においてだけでなく、所属するコースや、学科において専門の分野で留学体験が生かせるように、本論の「はじめに」

で述べた「留学支援のための体制整備」をどのようにしていくのかが最大の課題である。

おわりに

海外留学、海外研修の推進は、国際交流委員会のみに依存してはいけないことは言うまでもない。最近よく教職協働という表現がされるが、教員と職員の協力支援で、学生との信頼関係を築き、学生に留学・研修の必要性や可能性を認識させ、海外生活への不安を解消しておかねばならない。危機管理体制も万全にしておく必要がある。教務委員会での教育カリキュラムでの位置づけ、国際交流室を中心とした留学・研修プログラムの企画・広報活動、教員による授業での学習支援によって、学生が積極的に海外に目を向けられるような環境作りが求められている。

平成10年度（1998）に開始したニュージーランド国立ワイカト大学6か月留学も入れると、短期大学部最後の年度となった平成24年（2012）までの15年間、事故もなく留学・研修プログラムを終えられたのは、大谷学園本部はもとより、保護者の方々や多くの方々の支援のおかげである。そして何と言っても留学やNZ語学研修に参加した「外向き志向」の学生の努力に感謝したい。

ニュージーランド国立ワイカト大学Pathways Collegeの教職員の方々、及び留学・研修前から留学・研修期間を終えるまで学生の安全を第一にご指導下さいましたニュージーランド国立ワイカト大学日本事務所所長の松元昇さん、副所長の曽我部知子さん、航空券の手配をしてくださったカリヨン・トラベルの松永祐子さんには大変お世話になりました。最後になりましたが、大谷学園国際交流連絡協議会及び、大阪大谷大学・大阪大谷大学短期大学部国際交流委員会、教務委員会の教職員の方々にもお礼を申し上げます。

参考文献

文部科学省ホームページ

産学連携によるグローバル人材育成推進会議　最終報告「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」（平成23年4月28日付）

http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/__icsFiles/afieldfile/2011/06/01/1301460_1.pdf

日英・英語教育学会第17回研究シンポジウム「英語教育における海外留学研修の意味」配布資料（於、東京外国語大学、2011年9月24日）

仲谷ちはる「海外留学の意義と事前教育としての授業の考え方―大学職員の視点から―」

飯田　毅「英語教育における海外留学研修の意義―実践的コミュニケーションから英語を論文でまとめるまで―」

ベネッセ教育研究開発センター「大学生保護者に関する調査報告書—海外留学に対する意識」
http://benesse.jp/berd/center/open/report/dai_hogosya/2012/pdf/data_07.pdf
http://benesse.jp/berd/center/open/report/dai_hogosya/2012/index.html
朝日新聞「教育—どうする子どもの異文化体験」(2012年9月15日)
ニュージーランド国立ワイカト大学日本事務所ホームページ
http://www.waikato-jp.com/
ニュージーランド国立ワイカト大学日本事務所「ワイカト大学 Pathways College 留学ガイドブック」
ニュージーランド国立ワイカト大学日本事務所「ニュージーランド国立ワイカト大学留学案内」
ニュージーランド国立ワイカト大学 Pathways College ホームページ
http://www.waikato.ac.nz/pathways/ (英語版)
http://www.waikato.ac.nz/pathways/japanese/ (日本語版)
University of Waikato, 'English Language Prospectus' (1998~2012)
ニュージーランド観光局公式ホームページ
http://www.newzealand.com/jp/
大谷女子短期大学教育・評価委員会編「大谷女子短期大学の現状と課題　1999-2001」2002年7月
大谷女子短期大学　教育・研究等評価委員会編「大谷女子短期大学　平成15年度　自己点検・評価報告書」2004年7月
大谷女子大学短期大学部　教育・研究等評価委員会編「大阪大谷短期大学部(大谷女子大学短期大学部)平成17年度　自己点検・評価報告書」2006年6月
大阪大谷大学短期大学部自己点検・評価委員会編「大阪大谷大学短期大学部　平成18年度自己点検・評価報告書」2007年8月
大阪大谷大学短期大学部自己点検・評価委員会「大阪大谷大学短期大学部　平成21年度自己点検・評価報告書」2010年11月

資料

1.「夏期 NZ 語学研修」アンケート用紙
2.「夏期 NZ 語学研修」写真

資　料 1

ニュージーランド夏期２週間語学研修参加者の皆様へ

NZ 語学研修について、次年度研修の参考にしたいと思いますので下記アンケートにお答えください。このアンケートは語学研修をよりよいものにするためのもので、個人情報は一切外部に出すことはありません。

１．関空出発からホームステイ先到着まで、不安なことや問題がありましたか？
　あった　　なかった
→「あった」と答えた方は具体的に書いてください。

２．ホームステイでの生活で不安なことや問題がありましたか？
　あった　　なかった
→「あった」と答えた方は具体的に書いてください。

３．ホームステイ先で楽しかったことがあれば書いてください。

４．ワイカト大学への通学（バスの乗り降り）に問題はなかったですか？
　あった　　なかった
→「あった」と答えた方は具体的に書いてください。

５．ワイカト大学での初日のテストは難しかったですか？
　難しい　　普通　　やさしい
→「難しい」と答えた方は具体的に何が難しかったのか書いてください。

６．ワイカト大学での授業は自分のレベルにあっていましたか？
　レベルが高すぎた　　ちょうどよい　　レベルが低すぎた

７．ワイカト大学で１クラスの人数はだいたい何人くらいでしたか？
　＿＿＿＿＿＿人位

８．ワイカト大学の授業で楽しかったことや困ったことを具体的に書いてください。

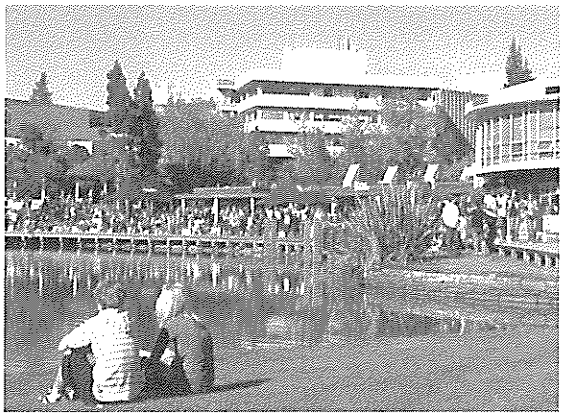
９．持参したお小遣いは、３~４万円で足りましたか？
　多すぎる　　ちょうどよい　　足りない

１０．全体として今回の研修内容はどうでしたか。
　とても満足　　まあまあ満足　　やや不満　　たいへん不満

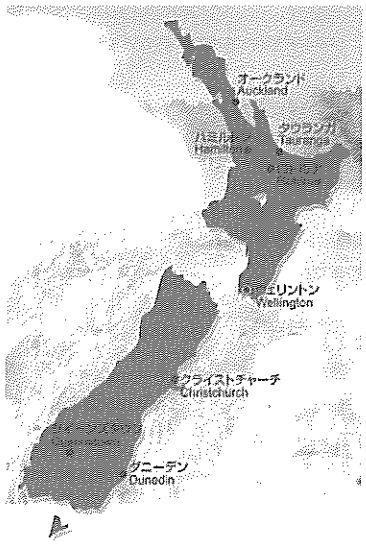
ご協力ありがとうございました。　出水純子

資　料 2

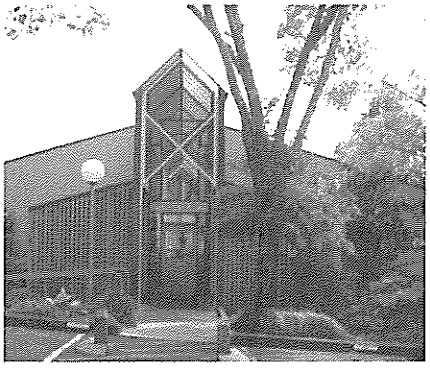
－夏期ＮＺ語学研修－



① 国立ワイカト大学

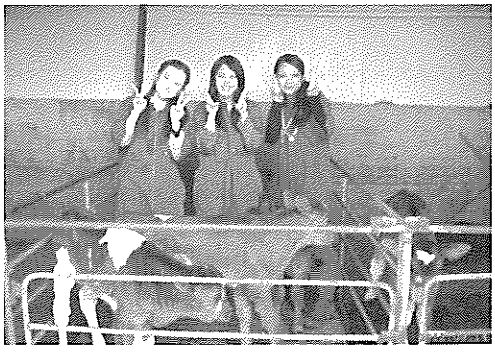


②NZ 地図（ハミルトン市―北島）



③国立ワイカト大学 Pathways College

④教室↑　　⑥農場訪問↓



⑤ホームステイ先で

写真提供：①②③国立ワイカト大学日本事務所、④⑤⑥平成 24 年度参加学生　東　未来